

# 特集にあたって

救急・集中治療領域における各種の画像診断は、迅速かつ適切な治療方針の決定に不可欠です。本誌の各特集号においても、関連する画像診断を提示しながら必要な知識を整理しています。

成書における画像診断はその特性上、経時的な判断プロセスではなく解剖学的に項立てされることが多くなります。そこで本増刊号の各項では、各解剖学的部位における異常画像（問）とその診断（答）のみの対比パターンに陥らないように、できるだけ「こういった場面での画像診断を選択するか」「画像診断結果からその後の治療をどう選択するか、またピットフォールは何か？」を意識した構成としました。

近年、CTのハイブリッド化や、超音波診断の応用拡大など、機器自体も、診断機器の適用範囲が拡大しており、これらは診断治療戦略にも大きな変化をもたらしています。さらに遠隔、モバイル診療であったり、災害時の体制であるなどなかなか成書では勉強する機会が少ない話題も取り上げ、第一線の先生方にまとめていただきました。またこの機会に、今さら聞きにくいような各モダリティの基礎知識についてもやさしく解説していただきました。

本増刊号が、救急・集中治療患者の診療技術の向上に役立ち、読者一人ひとりの新たな気づきや工夫へのきっかけとなりましたら幸甚です。